國學院大學学術情報リポジトリ

上野地域における古墳時代：古代の馬匹生産

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 古墳時代, 古代, 上野地域, 牧, 溝 キーワード (En): 作成者: 小山, 海斗 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001665

論　　文　　要　　旨

学籍番号	233323	氏　名	小山海斗

論 文 題 目：

上野地域における古墳時代～古代の馬匹生産

（内容の要旨）

本研究は、複数の牧と考えられる遺構・遺跡を分析し、それらが成立した背景を考える。また、時代ごとにその変化を追って牧の変遷を通史的に理解することを最終的な目標としている。

馬匹生産については、現在まで馬具・交通・馬・牧という 4 つの視点から多くの研究成果が積み上げられてきた。近年では中国や韓国など海外の研究者との交流も行われ、日本に留まらず朝鮮半島あるいは東アジア・ユーラシアの視点で馬匹生産を検討できるようになってきている。ここに筆者は、馬匹生産研究の可能性を見出した。

牧については、文献史学・歴史地理学・考古学の 3 つの分野から検討が行われてきた。本研究は、その中でも歴史地理学的方法を用いた考古学的研究に位置づけられる。

分析では、まず従来牧関連と言われてきた遺構・遺跡が、果たして牧なのかどうかを検討する。具体的には、検出された柵・溝あるいは想定される土塁の大きさを計測し、馬が飛び越えられるかどうかを検証する。飛び越えられない高さの場合、区画施設として十分機能しうるので、牧である可能性が高くなる。こうした馬の生態を踏まえた牧の研究は、従来でも行われてこなかったものであり、本研究のオリジナルな点である。区画施設の検討後は、周辺遺跡の立地や性格を時代ごとに比較してその変化を辿り、変化の背景の推測を試みた。対象資料は、古墳時代～奈良時代の榛名山麓遺跡群、飛鳥時代以降に属する中野谷地区遺跡群である。

区画施設の分析の結果、今回集成した 24 例のうち、12 例において馬が飛び越えることが出来ないとされる基準をクリアしていることが確認された。そのことから、積極的には認定することが出来ないものの、消極的に牧であると判断できると考えた。

続いて、古墳時代～奈良時代の榛名山麓遺跡群、中野谷地区遺跡群を構成する遺跡とその周辺の遺跡の立地・地形・性格の比較を行った。その結果、自然地形を利用していること、交通の要衝であることという共通点を挙げることが出来た。また、中野谷地区遺跡群は、榛名山麓の遺跡群に比べて水田や畠などが見られないといった相違点を挙げることが出来た。

以上の分析結果から、古墳時代の榛名山麓遺跡群から奈良時代の榛名山麓遺跡群と中野谷地区遺跡群への牧の変遷を考えた。長い時間をかけて馬匹生産を生活の基盤とした人々が、農地による土地の制約のない場所を求めて中野谷地区遺跡群や半田中原・南原遺跡で馬匹生産を始めたと結論付けた。

キーワード（5 語）
古墳時代・古代・上野地域・牧・溝